

目 次

はしがき v

序 論 語用論とはなんだろう	1
1. 意味論と語用論	2
2. 意味研究小史	6
コラム①	9
第1章 関連性理論	11
1.1. 真理条件的意味論からの決別	12
コラム②	19
1.2. 意味確定度不十分性のテーゼ	20
コラム③	23
1.3. 語用論過程	24
1.3.1. 発展	24
コラム④	34
1.3.2. 明意と暗意	34
1.3.3. 高次明意	41
1.3.4. 転嫁	46
1.4. 関連性	50
1.4.1. 関連性とは何か?	50
1.4.2. 関連性はなぜ「決め手」になるのか	54
1.4.3. 関連性原理	57
1.4.4. 解釈の手順	63
1.4.5. 亜人格性	65

1.4.6.	心の理論	66
1.5.	モジュール	67
1.5.1.	フォウダーのモジュール論	67
1.5.2.	100%モジュール説	71
1.6.	語用論過程モジュール性	73
第2章	言語行為理論・グライス理論・新グライス派……	77
2.1.	最初の本格的語用論・言語行為理論	78
	コラム⑤	84
2.2.	グライス理論	84
	コラム⑥	85
2.2.1.	協調の原理	85
2.3.	グライス理論をどう評価するか	94
2.4.	新グライス派	102
2.4.1.	ホーン	102
	コラム⑦	103
2.4.1.1.	尺度含意 (scalar implicature)	104
2.4.1.2.	ホーン理論のその他の問題点	108
	コラム⑧	116
2.4.2.	レヴィンスン	116
第3章	認知言語学……	131
3.1.	言語の“独自性”の否定	132
	コラム⑨	141
3.1.1.	「言語自律論」をどうして否定できるのか?	142
3.2.	言語研究は認知全般との関連において行わなければならない	146
3.3.	認知言語学の「成果」	153
3.3.1.	メタファー	154
	コラム⑩	158

3.3.2. プロトタイプ	159
3.3.3. 把握 (construal)	161
3.3.4. 認知言語学の「窓」はどこにあるのか?	163
3.3.5. 2種類の推論	165
3.4. 関連性理論によるモジュール説	173
3.4.1. モジュールはバンクしないか?	173
3.4.2. モジュールはなぜ文脈依存 (context-sensitive) になりうるか?	175
3.4.3. モジュールの生得性	177
3.5. 認知言語学には「窓」がない	180
参考文献	181
索引	189